

“por+期間名詞句”とps./imp.の共起関係： “durante+期間名詞句”との比較の観点から

山村，ひろみ

<https://hdl.handle.net/2324/20017>

出版情報：スペイン語学研究．(26)，pp.171-192，2011-08．東京スペイン語学研究会
バージョン：
権利関係：



“*por*+期間名詞句”と *ps./imp.*の共起関係 ー“*durante*+期間名詞句”との比較の観点からー

山村ひろみ

1. はじめに

本稿は Yamamura (en prensa)に引き続き、過去の事態に言及するスペイン語の2つの単純時制、*pretérito perfecto simple*(以下、*ps.*)と *pretérito imperfecto*(以下、*imp.*)の機能的差異を「アスペクト」の違いと解釈するいわゆる「アスペクト説」の妥当性を記述的に検討するものである。ここで言う「アスペクト説」とは García Fernández (1998:20)に代表されるもので、*ps.*と *imp.*はどちらも発話時に先行する過去の事態に言及し、その違いはもっぱら「アスペクト」の違い、すなわち、「完了（アオリスト）アスペクト」を有する *ps.*は当該事態の開始から終結まで全体を可視化(*visualizar*)するのに対し、「未完了アスペクト」の *imp.*は当該事態の内的部分にアクセス(*acceder*)するだけで当該事態の開始あるいは終結を可視化することはない、とするものである。

この「アスペクト説」の妥当性は、García Fernández (1998:28-30)によれば、特に、“*durante*+ *sintagma nominal cuantificado*（量化された名詞句）”という期間を表す副詞句と *ps.*あるいは *imp.*の共起のあり方に明らかなという。つまり、同副詞句はある事態の開始から終結までを計るものであることから同じく当該事態の開始から終結までに言及する *ps.*とは共起するが、当該事態の開始・終結には言及しない *imp.*とは共起しない、という違いがあるというのである。しかし、*ps.*と *imp.*の実例の中には García Fernández の主張に反するものが散見される。そこで、Yamamura (en prensa)は、García Fernández の主張を、RAE のデータベース(Corpus de Referencia del Español Actual, 以下 CREA)における *ps.*および *imp.*の“*durante*+ *sintagma nominal de duración*（期間名詞句）”との共起関係を観察することを通し、検証した。その結果、(1)のことが明らかになった。

(1)

- a) García Fernández(1998:30)の主張に反し、“*durante*+期間名詞句”は習慣読みでない *imp.*とも共起することができる。ただし、その頻度はあまり高くない。
- b) García Fernández (1998:28-30)の指摘とは反し、量化された名詞句を支配する *durante* は *imp.*と共起することがある。その時、当該名詞句は特定化(*determinado*)されている傾向がある。

- c) 量化されてはいるが特定化されていない名詞句を支配した *durante* 句が imp. と共起するのは不可能ではないが、非常に難しい。
- d) García Fernández (1998) の主張に反する imp. の例はすべて何らかの過去の出来事に言及した文脈で出現したものである。
- e) ps. と共起した *durante* 句は当該事態の生起時を示すことがある。

(1) の結果には García Fernández(1998)の主張とは相容れない部分がある。そこで、これらの結果を説明するために Yamamura (en prensa)は(2)を提案した。

(2)

- i) imp. と共起した“*durante*+期間名詞句”は、山村(1996, 1997, 1999)で提案された imp. の出現に不可欠な既定の過去時(P)として機能していると考えられる。imp. と共起した *durante* 句の多くが定冠詞、指示詞等で特定化されているのは、その *durante* 句が文脈が喚起する何らかの過去時に言及しているからである。
- ii) 量化されてはいるが特定化されていない名詞句を支配した *durante* 句が imp. と共起するのが難しいのは、この *durante* 句が imp. の出現に必須の既定の過去時(P)として機能することが困難だからである。

(1)(2)で言及されている山村(1996, 1997, 1999)の imp. と ps. の定義とは、次のとおりである。

(3) 山村(1996, 1997, 1999)による imp. の定義

imp.: PoV = P (喚起された既定の過去時) [当該事態の pres. による表出]

- i. imp. は喚起された既定の過去時(=P)と当該命題¹が同時関係(=oV)にあることを示す。
- ii. imp. が示す「同時性」は基本的には発話時と当該命題の pres. による表出の間にある関係と等価である。
- iii. pres. と imp. が示す当該命題の基準時に対する「同時性」は「状況」と名付けられる。

¹ 本稿の「命題」とは山村(2011)の定義に従うもので、「言語外現実を言語化するために選択された時制化される前の言語形式のことを指し、[]の中に不定詞の形で示される」ものを指す。また、同論文で指摘されたように、ある命題がどのような「時制」で表出されるかは、当該命題の意味解釈と当該「時制」の機能の共存性(compatibilidad)の有無に拠る。

(4) 山村(1996, 1997, 1999)による ps. の定義

ps.: O-V = O(~Prop. & Prop.)

- i. ps.は発話時(O)以前のある時点において当該命題の「未成立」(=~Prop.)から「成立」(=Prop.) への変化, つまり, 当該命題が生起したことを示す.
- ii. ps.の示す当該命題の生起は過去の特定の時空間を占める.

以下では, 上記のことを踏まえながら, まず, García Fernández (1998) の主張を, “*durante*+期間名詞句”と同じく期間を表すと言われる “*por*+ 期間名詞句”と ps.および imp.との共起関係から検証し, その結果を基に「アスペクト説」の妥当性を再度検討する. そして, さらに, ps.および imp.との共起という観点から見た“*durante*+ 期間名詞句”と “*por*+ 期間名詞句”の違いも明らかにしていく.

2. 観察

本節では期間を表す副詞句“*por*+ 期間名詞句”と ps.および imp.の共起関係の観察を行う. 以下では, まず, 観察の方法と対象を述べ, その後, 観察結果を具体例と共に示す. また, その観察結果を, Yamamura(en prensa)で観察された ps.と imp.の“*durante*+ 期間名詞句”との共起関係の結果と比較対照し分析する.

2.1. 方法と対象

本稿が採用した観察方法と対象は次のとおりである. まず, ps.および imp.と “*por*+期間名詞句”との共起関係を調べるための資料体として用いたの Yamamura(en prensa)の観察で用いたのと同じ CREA とした².そして, この CREA のデータに対し, 次に述べるような条件で検索を実施した.

第一の検索条件は, どの地域のスペイン語を対象とするのかの指定であるが, これも Yamamura(en prensa)と同じく「スペイン」とした. また, 検索をかける語句の条件も Yamamura(en prensa)に合わせ, *por* によって導かれる名詞句は *segundo, minuto, hora, día, semana, mes, año* のようにそれ自体明確な時間限定を示す名詞を核とし, 冠詞や指示詞等により特定化されたものと特定化されていないもの, 数詞により量化されたものと量化されていないものの組み合わせ, さらに “*todo el tiempo/mucho tiempo*”とした³. すなわち, 検索語句の条件は, “*por*+特定かつ非量化名詞句”, “*por*+特定かつ量化名詞句”, “*por*+不特定かつ量

² CREA へのアクセス時は 2010 年 7 月から 8 月にかけてである.

³ 本稿における「量化」とは *por* に支配される期間名詞句に数詞が出現していることを指し, 当該名詞の単複は問題としていない.

化名詞句”，“*por*＋不特定かつ非量化名詞句”の 4 種類と “*por+todo el tiempo/mucho tiempo*”いうことである．次に，これらの条件で検索された用例の中から“*por*＋期間名詞句”が *ps.*あるいは *imp.*と共起しているものだけを抽出した．ただし，*imp.*と共起した用例の中から「習慣読み」のものは除いた．

2.2. 結果

本項では，前項で提示した観察方法・対象に従い CREA に対して実施した検索結果を，その検索条件別に示す．

2.2.1. *por*＋特定かつ非量化期間名詞句

まず，“*por*＋特定かつ非量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起関係の特徴を見る．以下の表 1 および表 1’を見られたい⁴．

表 1: “*por*＋特定かつ非量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起状況

	<i>por el</i> año...	<i>Por el</i> año...	<i>por el año</i> pasado	<i>Por el año</i> pasado	<i>por los</i> años...	<i>Por los</i> años...
<i>ps.</i>	31/43 (72%)	1/1 (100%)	0	0	63/88 (71.6%)	3/10 (30%)
<i>imp.</i>	12/43 (28%)	0/1 (0%)	0	0	25/88 (28.4%)	7/10 (70%)

	<i>por</i> esos...	<i>Por</i> esos...	<i>por</i> aquellos...	<i>Por</i> aquellos...	<i>por</i> estos...	<i>Por</i> estos...
<i>ps.</i>	9/17 (52.9%)	10/12 (83.3%)	50/137 (36.5%)	15/50 (30%)	2/3 (66.7%)	1/1 (100%)

⁴ 表の見方は次のとおりである．“*por/Por*＋特定かつ非量子化期間名詞句”の小文字の *por* は当該副詞句が文中に，大文字の *Por* は当該副詞句が文頭に出現したことを示す．“*por el año ...*”のような期間を表す名詞の後の “...” は，“*por el año 30*”のように当該年代の数字が出現していることを示す．また，“*por/Por esos ...*”のような指示詞の後の “...” は“*por esos años*”のように期間を表す名詞が出現していることを示す．さらに，*ps.*あるいは *imp.*との共起頻度の数字については，棒線の右側は当該副詞句と共起した *ps.*と *imp.*の総数，左側は当該時制と共起したものの数を示す．そして，パーセンテージは当該副詞句と共起した *ps.*と *imp.*の総数のうち当該時制が占める割合を示したものである．なお，当該 “*por*＋期間名詞句”に対応する “*durante*＋期間名詞句”の観察結果は当該 “*por*＋期間名詞句”の結果を示す表の番号に「'」をつけたもので示す．

imp.	8/17 (47.1%)	2/12 (16.7%)	87/137 (63.5%)	35/50 (70%)	1/3 (33.3%)	0/1 (0%)
------	-----------------	-----------------	-------------------	----------------	----------------	-------------

表 1': “*durante*+特定かつ非量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起状況⁵

	<i>durante el</i> <i>año...</i>	<i>Durante</i> <i>el año...</i>	<i>durante el</i> <i>año pasado</i>	<i>Durante el</i> <i>año pasado</i>	<i>durante los</i> <i>años...</i>	<i>Durante</i> <i>los años...</i>
ps.	66/70 (94.3%)	32/36 (88.9%)	38/38 (100%)	17/18 (94.4%)	188/208 (90.4%)	93/108 (86%)
imp.	4/70 (5.7%)	4/36 (11.1%)	0/38 (0%)	1/18 (5.8%)	20/208 (9.6%)	15/108 (14%)

	<i>durante</i> <i>esos...</i>	<i>Durante</i> <i>esos...</i>	<i>durante</i> <i>aquellos...</i>	<i>Durante</i> <i>aquellos...</i>	<i>durante</i> <i>estos...</i>	<i>Durante</i> <i>estos...</i>
ps.	46/55 (83.6%)	28/30 (93.3%)	51/69 (73.9%)	17/22 (77.3%)	39/45 (86.7%)	25/31 (81.6%)
imp.	9/55 (16.4%)	2/30 (6.7%)	18/69 (26.1%)	5/22 (22.7%)	6/45 (13.3%)	6/31 (19.4%)

表 1, 表 1'から“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起関係の特徴をまとめると次のようになる。

まず, imp.との共起関係を見ると, “*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は“*durante*+特定かつ非量化期間名詞句”に比べ, imp.と共起する頻度が高いことが分かる。とりわけ, *Por los años...*, *por aquellos ...*, *Por aquellos...*のようにその期間が当該期間名詞の複数形によって示される場合には, imp.との共起の割合が ps.とのそれを上回っている。一方, *por/Por el año pasado* は, imp., ps.のどちらとも共起していない。しかし, その期間が *por/Por el año pasado* と同じく期間名詞の単数形で示されていても, *por el año...*は imp.と共起している。ただ, その割合は ps.のそれよりも低い。このような“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”と共起した imp.の文は, 以下の例が示すように, 当該 *por* 句の示す期間における指示対象の属性を示している⁶。

⁵ “*por*+期間名詞句”に対応する “*durante*+期間名詞句”の観察結果の表の見方は “*por*+期間名詞句”のそれに準じる。

⁶ 用例中, 当該の *por* 句はイタリック, 当該の imp., ps.は下線で示す。また, 出典は括弧で示す。

(5) *Allá por el año 1970*, Irlanda era uno de los países europeos con economía mas dinámica. Con el mano a mano Fitzgerald-Haughey, Irlanda hizo méritos para ingresar en la cárcel, en el supuesto de ser una persona individual, acusada de endeudamiento irresponsable. (ABC, 17/02/1987)

(6) *Allá por los años cincuenta* estudiábamos el mismo curso en el colegio pensionado de El Collell. Quim Vallmajó era un chico sencillo, trabajador (se pagaba la escuela trabajando mientras los demás jugábamos), siempre amable y sonriente. (La Vanguardia, 01/06/1994)

(7) Muchos de los actuales miembros del RAM eran entonces agitadores universitarios en los mismos círculos de los que surgió también el partido comunista en 1968. El mismo hombre que crearía el partido comunista filipino, José María Sison, daba por esos años conferencias en la academia militar. (El País, 01/12/1986)

(8) Lo cierto es que, más allá de todas esas consideraciones, nosotros nos sentíamos por aquellos años como los contemporáneos de los Sex Pistols, los Ramones y todos los grupos de airada protesta contra el sistema adulto. (Corre, rocker. Crónica personal de los ochenta)

(9) Esto lo veo claro ahora, tantos años después, años de insistente, obsesionante recuerdo. *Por aquellos días* todo era confusión de mente, aunque en el corazón las cosas anduviesen más claras. (Filomeno, a mi pesar. Memorias de un señorito descolocado)

次に, “por+特定かつ非量化期間名詞句”と ps.との共起関係を見ると, “durante+特定かつ非量化期間名詞句”の場合とは異なり, その頻度は必ずしも imp.のそれを圧倒しているわけではない. また, 先述したように, *por/Por el año pasado* は ps.とも共起していないが, その期間が当該期間名詞の単数形によって示される *por el año...* の場合は, ps.の頻度が imp.のそれを上回っている. 以下, 具体例を示す.

(10) Jaime I fue el encargado de incorporarlo, *allá por el año 1266*, al orbe cristiano.

(Escapada, 25/11/1998)

- (11) Me lo presentaron *allá por los años 60* en casa de Louise de Vilmorin y desde entonces cada vez que nos encontrábamos en una morada amiga hablábamos de caballos. (*La Vanguardia*, 02/10/1995)
- (12) En efecto, obras como *La nona*, *Gris de ausencia* o *Convivencia*, que se estrenaron *por esos años*, configuran grandes metáforas sobre la historia y la idiosincrasia argentinas en general (...) (*Stichomythia. Revista de teatro español contemporáneo*, nº 0, 01/2002)
- (13) Nuestro grupo realizó *por aquellos años* un estudio epidemiológico en una industria farmacéutica en la que se elaboraban medicamentos que contenían diversas enzimas, entre ellas, papaína. (*Revista Española de Alergología e Inmunología Clínica*, vol. 15, nº 1, 02/2000)
- (14) *Por aquellos días*, el gran suceso de la vida parisiense fue la maravillosa y copiosísima exposición de arte "De Cimabue a Tiepolo" con que la Italia mussoliniana había querido demostrar a la democrática Francia la solidez y la finura de su amistad política. (*Descargo de conciencia (1930-1960)*)

以上の用例を見ると、ps.と共起した“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は、当該事態が有効な期間を示すというよりは、当該事態が生起した時点あるいはインターバルを示しているように思われる。また、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”には *allá* が前接し、“*allá por*+特定かつ非量化期間名詞句”という形式で出現することが多いという特徴もある。この特徴は、後述するその他の *por* 句では見られないものであり、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”に特有のものと考えられる。このこと、また、imp.および ps.と共起した際のその意味解釈から、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は“*durante*+期間名詞句”と同じ期間表現というよりは「...の頃」といった時の近似値的表現と解釈した方がよいように思われる。

2.2.2. *por*+特定かつ量化期間名詞句

次に“*por*+特定かつ量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起関係を見る。ここで扱う“*por*+特定かつ量化期間名詞句”は“*por*+los dosあるいは*tres*+期間名詞句”である。

表 2: “*por*+特定かつ量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起状況

	<i>por los dos...</i>	<i>Por los dos...</i>	<i>por los tres...</i>	<i>Por los tres...</i>
<i>ps.</i>	0	0	0	0
<i>imp.</i>	0	0	0	0

表 2’: “*durante*+特定かつ量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起状況

	<i>durante los dos...</i>	<i>Durante los dos...</i>	<i>durante los tres...</i>	<i>Durante los tres...</i>
<i>ps.</i>	30/34(88.2%)	19/21 (90.5%)	39/43 (90.7%)	20/20 (100%)
<i>imp.</i>	4/34 (11.8%)	2/21 (9.5%)	4/43 (9.3%)	0/20 (0%)

“*por*+期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起関係のあり方の中で，“*durante*+期間名詞句”のそれと最も異なっているのが，“*por*+特定かつ量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起関係である．表 2, 表 2’を比較対照すれば分かるように，少なくともスペインを検索対象とした CREA の結果では，“*por*+特定かつ量化期間名詞句”が *ps.*あるいは *imp.*と共起した用例は見つからなかった．一方，“*durante*+特定かつ量化期間名詞句”は，*ps.*および *imp.*のどちらとも共起しており，その頻度は *ps.*が *imp.*を上回っていた．

2.2.3. *por*+不特定かつ量化期間名詞句

“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起関係は表 3のとおりであるが，この結果は表 3’の“*durante*+不特定かつ量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起関係と極めて似ている．ただ，“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”の場合は *imp.*と共起した例はなかったが，“*durante*+不特定かつ量化期間名詞句”の場合は，非常に少数ではあるが，*imp.*との共起例があった．また，対象地域のスペインでは，“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”は“*durante*+不特定かつ量化期間名詞句”ほど頻出しなかった．

表 3: “*por*+不特定かつ量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起状況

	<i>por dos...</i>	<i>Por dos...</i>	<i>por tres...</i>	<i>Por tres...</i>
<i>ps.</i>	12/12(100)%	1/1 (100%)	4/4 (100%)	1/1 (100%)
<i>imp.</i>	0/12 (0%)	0/1 (0%)	0/4 (0%)	0/0 (0%)

表 3': “*durante*+不特定かつ量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起状況

	<i>durante dos...</i>	<i>Durante dos...</i>	<i>durante tres...</i>	<i>Durante tres...</i>
ps.	180/183(98.4%)	42/43 (98%)	140/143(98%)	34/34 (100%)
imp.	3/183 (1.6%)	1/43 (2%)	3/143 (2%)	0/34 (0%)

なお, “*por*+不特定かつ量化期間名詞句”は“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”のように *allá* が前接する例はなかった. 以下, その具体例をあげる.

(15) Excluyeron *por dos minutos* a Guijosa (dos veces), Duishebaiev (dos), Olalla, Garralda, Sivertsson (dos), Fraendesjoe y Loevgren. (*El País*, 30/05/1997)

(16) *Por dos semanas* consecutivas se olvidaron del anecdotario nacional y hablaron, como el doctor Andújar, de la naturaleza humana. (*Los hombres lloran solos*)

2.2.4. *por*+不特定かつ非量化期間名詞句

“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起関係は表 4 のとおりであるが, この結果は表 4'の“*durante*+不特定かつ非量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起関係とは非常に異なっている. つまり, 当該 *por* 句が出現すること自体極めて稀ということである.

表 4: “*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起状況

	<i>por segundos</i>	<i>Por segundos</i>	<i>por minutos</i>	<i>Por minutos</i>	<i>por horas</i>	<i>Por horas</i>	<i>por días</i>	<i>Por días</i>
ps.	1/1 (100%)	0	0	0	1/1(100%)	0	0	0
imp	0/1 (0%)	0	0	0	0/1(0%)	0	0	0

	<i>por semanas</i>	<i>Por semanas</i>	<i>por meses</i>	<i>Por meses</i>	<i>por años</i>	<i>Por años</i>
ps.	0	0	1/1(100%)	0	3/3(100%)	0
imp.	0	0	0/1 (0%)	0	0/3 (0%)	0

表 4': “*durante*+不特定かつ非量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起状況

	<i>durante</i> segundos	<i>Durante</i> segundos	<i>durante</i> minutos	<i>Durante</i> minutos	<i>durante</i> horas	<i>Durante</i> horas	<i>durante</i> días	<i>Durante</i> días
<i>ps.</i>	0	2/2 (100%)	2/2 (100%)	2/2 (100%)	73/75 (97.3%)	17/18 (94.4%)	23/23 (100%)	16/17 (94.1%)
<i>imp.</i>	0	0/2 (0%)	0/2 (0%)	0/2 (0%)	2/75 (2.7%)	1/18 (5.6%)	0/23 (0%)	1/17 (5.9%)

	<i>durante</i> semanas	<i>Durante</i> semanas	<i>durante</i> meses	<i>Durante</i> meses	<i>durante</i> años	<i>Durante</i> años
<i>ps.</i>	29/30 (96.7%)	7/8 (87.5%)	61/65 (93.8%)	30/31 (96.8%)	148/153 (96.7%)	97/112 (86.6%)
<i>imp.</i>	1/30 (3.3%)	1/8 (12.5%)	4/65 (6.2%)	1/31 (3.2%)	5/153 (3.3%)	15/112 (13.4%)

以下は，“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”と *ps.*が共起した例である．

(17) Fue uno de los misterios que *por años* apasionó a la opinión pública británica comparable sólo al caso de Jack el Destripador. ¿Por qué Lord Fry, al regreso de Sudamérica, tronchaba una carrera en pleno ascenso, rechazaba el Ministerio de Colonias y se recluía en su castillo de los páramos escoceses? (*El Supremísimo*)

(17)は、解釈上，“*durante años*”と共起した(18)に類似したものと思われる．

(18) Miguel Martín fue director de un Jazzaldia que *durante años* conoció verdaderos récords internacionales de asistencia hacia ese tipo de músicas. Diferentes circunstancias culturales, sociales y de índole mercantil en cuanto a oferta musical en directo hicieron que el Jazzaldia se convirtiera en peregrinaje obligado para miles de asistentes, de casa y de fuera. (*El Diario Vasco*, 23/07/1996)

一方，“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”と *imp.*の共起については注意する必要がある．表 4 によれば “*por*+不特定かつ非量化期間名詞句” は *imp.*とは共起していないが、これは当該 *por* 句が期間を表す副詞句として解釈された場合

の結果であり，次の例のように，期間以外の解釈を受けた場合には，表 4 の結果とは逆に，ps.よりも imp.と共起することが多くなるからである．

(19) "Franco -ha escrito el doctor Pozuelo- era otro hombre, perdía peso *por días*, estaba continuamente nervioso y apenas podía conciliar normalmente el sueño. (*El ocaso del régimen. Del asesinato de Carrero a la muerte de Franco*)

“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”と共起した imp.の多くは(19)のようなものである．このように imp.と共起した“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”について，NGLE は次のように述べている．

“ 23.13l Las locuciones adverbiales *por momentos*, *por días*, *por meses*, etc., focalizan los estadios progresivos de algún cambio gradual. Ello explica que tiendan [sic]a rechazarse con los tiempos perfectivos. Se prefiere marcadamente la primera opción en *La situación {empeoraba~empeoró} por momentos*. ” (NGLE: 1765-1766)

NGLE の記述に従うならば，(19)のように imp.と共起した“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”は，当該事態の漸次的変化の段階を示したものであり，当該事態の有効な期間を示したものではない．また，“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”には，次の例のように，当該名詞の示す長さが当該事態が行われる時間的単位を示すと解釈されることもあった．

(20) Físicamente había cambiado mucho: ya no era la estudiante americana graciosa que aprendía español y trabajaba *por horas* algunas tardes como secretaria en Data. (*Aquellos años*)

このように“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”は，“*durante*+不特定かつ非量化期間名詞句”とは違い，複数の解釈が可能である点がその特徴と言える．

2.2.5. *por+todo el tiempo* あるいは *mucho tiempo*

最後に，“*durante*+期間名詞句”を対象にした場合と同様に，“*por todo el tiempo*”および“*por mucho tiempo*”と ps.あるいは imp.の共起状況を見る．以下の表 5，表 5'を参照されたい．

表 5: “*por+todo el tiempo/mucho tiempo*”と ps.および imp.の共起状況

	por todo el tiempo	Por todo el tiempo	por mucho tiempo	Por mucho tiempo
ps.	0	0	15/15 (100%)	1/1 (100%)
imp.	0	0	0/15 (0%)	0/1 (0%)

表 5': “*durante+todo el tiempo/mucho tiempo*” と ps.および imp.の共起状況

	durante todo el tiempo	Durante todo el tiempo	durante mucho tiempo	Durante mucho tiempo
ps.	20/25 (80%)	2/2 (100%)	239/254 (94.1%)	87/105 (82.9%)
imp.	5/25 (20%)	0/2 (0%)	15/254 (5.9%)	18/105 (17.1%)

表 5 の結果から分かるように、少なくともスペインを対象領域とした CREA の検索においては、“*por todo el tiempo*”が ps.あるいは imp.と共起した例はなかった。“*por todo el tiempo*”という副詞句自体は出現するが、それらは(21)のように、発話時あるいは基準となる過去の時点より以降のインターバルに言及したものか、(22)のように時の表現とは異なる *por* 句として解釈されるものであった。

(21) - Lo que sea que te haya traído a Barcelona, hijo mío, déjame que yo lo haga por ti mientras tú te escondes en casa. Tu habitación sigue como la dejaste y es tuya *por todo el tiempo* que la necesites. (*La sombra del viento*)

(22) Por ejemplo, si la acción se interpone pasados diez años, y no ha prescrito porque existen causas de interrupción, nada impide al titular, según la nueva Ley, calcular los daños y perjuicios *por todo el tiempo* de la violación, sin la limitación de los cinco años. (*Ley de marcas. La nueva ley vigente en 2002*)

一方、“*por mucho tiempo*”は、(23)のように、ps.としか共起していなかった。“*durante mucho tiempo*”の場合は、(24)のように、imp.と共起した例もあったことを考えるならば、この“*por mucho tiempo*”と ps.および imp.の共起関係のあり方は、上で見た“*por+不特定かつ量化期間名詞句*”と ps.および imp.の共起関係と同じく、“*por+期間名詞句*”に特有のものと思われる。

(23) No pocos murieron, algunos no aguantaron las vejaciones, los malos tratos y se suicidaron. Muchos profesores fueron encarcelados y encerrados en oscuras celdas *por mucho tiempo*. (*El País*, 03/01/1981)

(24) *Durante mucho tiempo*, la medida más universal que se solía adoptar ante la presencia de una epidemia o la amenaza de contagio, era el aislamiento (no se conocía otro remedio con algún grado de eficacia). (*Ciencia, tecnología y sociedad*)

3. 考察

前節では、スペインを対象領域としながら、CREA 中の “*por*+期間名詞句” と *ps.*および *imp.*の共起状況を観察した。本節では、その観察結果を *ps.*と *imp.*の機能、また、“*por*+期間名詞句”と “*durante*+期間名詞句”の比較対照という 2 つの観点から考察していく。

3.1. “*por*+期間名詞句”と *ps.*および *imp.*との共起のあり方

3.1.1. 「期間名詞句」の特徴と *ps.*および *imp.*との共起のあり方

本項では“*por*+期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起のあり方を当該期間名詞句の特徴別にまとめていく。

まず、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起については、“*durante*+特定かつ非量化期間名詞句”の場合とは異なり、*imp.*との共起頻度の高さが際立った。“*por*+期間名詞句”と “*durante*+期間名詞句”が同じく期間を表す副詞句と解釈するならば、この結果は「アスペクト説」にとっては都合が悪いものとなろう。それに対し、*imp.*は「既定の過去時(P)と当該命題の同時関係を示す」とする山村(1996, 1997, 1999)の解釈に従うならば、この“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”と *imp.*の間に見られる共起関係は、当該 *por* 句が *imp.*の出現に必須の既定の過去時(P)と解釈された結果と説明されることになる。一方、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”が *ps.*と共起した場合の解釈は、「アスペクト説」の観点からは、当該事態の開始から終結までの全体が可視化された結果ということになる。一方、山村(1996, 1997, 1999)および Yamamura(en prensa)の解釈に従えば、当該 *por* 句は *ps.*によって表出された事態の「生起時」あるいはその事態の「有効期間」を示すということになる。以下の例を見られたい。

(25)(=11) Me lo presentaron *allá por los años 60* en casa de Louise de Vilmorin y desde entonces cada vez que nos encontrábamos en una morada amiga hablábamos

de caballos. (*La Vanguardia*, 02/10/1995)

(26)(=13) Nuestro grupo realizó por aquellos años un estudio epidemiológico en una industria farmacéutica en la que se elaboraban medicamentos que contenían diversas enzimas, entre ellas, papaína. (*Revista Española de Alergología e Inmunología Clínica*, vol. 15, nº 1, 02/2000)

(25)のように、ps.によって表出された *télico* な事態と共起した“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は、当該事態の「生起時」を示す。ただし、この *télico* な事態は限界的であることから、その「生起時」は *por* 句が示す期間中のある時点ということになる。つまり、(25)の *me lo presentaron en casa de Luise de Vilmorin* という事態が起こったのは、*por los años 60* が示す期間中のある時点ということである。一方、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”が(26)のように、ps.によって表出された *atélico* な事態と共起した場合には、*por* 句は当該事態が生起した期間、当該事態が有効な期間を示すと解釈される。

次に“*por*+特定かつ量化期間名詞句”については、2.2.2 で見たように、“*durante*+特定かつ量化期間名詞句”の場合とは異なり、ps., imp.のどちらとも共起しなかった。このことは3.2.1.で述べるように、“*por*+期間名詞句”の機能的特徴に直接関係するものである。

他方、“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”と ps.および imp.との共起のあり方は、ps.との共起頻度が imp.のそれを圧倒したという点において、対応する *durante* 句と ps.および imp.との共起のあり方に極めて類似したものであった。ただし、“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”が ps.としか共起しなかったのに対して、“*durante*+不特定かつ量化期間名詞句”は、極めて稀ではあるものの、imp.と共起することもあった。この点からすれば、「アスペクト説」にとってその論拠となるのは、“*durante*+不特定かつ量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起関係というよりは、むしろ、“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”と ps.および imp.の共起関係ということになろう。なお、検索された“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”と共起した事態はすべて *atélico* であり、解釈上、当該 *por* 句はその事態の有効期間を示していた。

“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”と ps.および imp.との共起のあり方については、“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”と同様、ps.としか共起しないという結果を得たが、当該 *por* 句の解釈については期間を表す以外にも様々あることが分かった。

最後に、“*por*+todo el tiempo/mucho tiempo”と ps.および imp.との共起について

は、まず、“*por todo el tiempo*”が ps., imp.のどちらとも共起しなかった点あげられる。本稿が観察する限り、この *por* 句は発話時あるいはその他の基準時以降のインターバルを示すのが一般的である。一方、“*por mucho tiempo*”については、“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”の場合と同様、ps.としか共起しなかった。

3.1.2. “*por*+期間名詞句”と ps.および imp.との共起のあり方：「アスペクト説」 との関係

前項で見た “*por*+期間名詞句”と ps.および imp.の共起のあり方の結果は、「アスペクト説」の妥当性を支持するよう見えるものと支持しないよう見えるものに分けられる。

まず「アスペクト説」を支持するよう見えるのは、*por* が支配する期間名詞句が不特定かつ量化されたものの時には、ps.としか共起しないという観察結果である。先にも述べたように、量化された期間名詞句を導く *por* 句は当該事態の開始から終結までを計測するものと考えるならば、それが当該事態の開始から終結までの全体に言及する ps.としか共起しないという事実は、まさに「アスペクト説」の妥当性を示すものと言える。しかしながら、この事実は別の観点からも説明できなくはない。“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”はなぜ imp.と共起しないのかという観点からの説明である。

山村(1996, 1997, 1999)によれば、imp.が出現するためには何らかの方法で喚起された既定の過去時(P)が必要であり、そのような既定の過去時が保証されない限り imp.は出現しない。この考えに従うならば、“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”と imp.が共起しないのは、それが imp.の出現に必須の既定の過去時(P)として機能することができないからである、と解釈されることになる。

一方、「アスペクト説」を支持しないよう見える結果は、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は ps.のみならず imp.とも共起しやすく、場合によっては、imp.の共起頻度が ps.のそれを大きく上回るという事実である。この *por* 句は量化された期間名詞句を支配しているわけではないが、“*durante*+特定かつ非量化期間名詞句”と同じくある限定された期間を示すものだとすると、それが imp.と共起しやすいという事実は「アスペクト説」にとっては反例となろう。以下の例を参照されたい。

(27) Jano siguió intensificando sus lecturas, especialmente las francesas. El francés era por aquellos días -junto a la literatura- su asignatura favorita. (*Un año en el sur*)

(28) Su vida, dictada o escrita de su mano, fue *por aquellos días* el mejor regalo de mi hermana, su mejor medicina, único bálsamo capaz de ahuyentar sus quebrantos en los días tan largos de la espera. (*Extramuros*)

(27)は「習慣」読みの困難な繫辞動詞 *ser* の *imp.*が *por aquellos días* と共起した例であり、(28)は同じ *ser* の *ps.*が *por aquellos días* と共起した例である。この2つの例について、*ps.*と *imp.*は時間限定性の表出の有無において対立とする「アスペクト説」ならば、*imp.*によって表出された(27)は当該事態が *por aquellos días* が示す時間的範囲を超えて有効な可能性を示すが、*ps.*によって表出された(28)の有効性は *por aquellos días* が示す期間に限定される、と解釈することになろう。しかし、(27)(28)にはそれとは異なる解釈も可能である。すなわち、山村(1996, 1997, 1999)に従うならば、(27)の *por aquellos días* は *imp.*の出現に不可欠な「既定の過去時(P)」として機能し、当該 *imp.*文はこの P における指示対象の属性を示し、一方、(28)の *por aquellos días* は当該 *ps.*文が示す事態の「生起時」あるいは「有効期間」を示し、その *ps.*自体は[*su vida, (...) ser el mejor regalo de mi hermana, (...)*]という命題内容が成立したことを表す、と解釈されるのである。

3.2. *ps.*および *imp.*との共起という観点から見た“*por*+期間名詞句”と“*durante*+期間名詞句”

本項では、*ps.*および *imp.*との共起関係という観点から “*por*+期間名詞句”と “*durante*+期間名詞句”を比較対照する。

3.2.1. 2種類の “*por*+期間名詞句”

まず、“*por*+期間名詞句”は、*imp.*との共起の可能性という観点から、それと共起しない “*por*+期間名詞句”と共起する “*por*+期間名詞句”の2種類に分けることができる。*imp.*と共起しない “*por*+期間名詞句”には、“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”、“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”、“*por mucho tiempo*”がある。このグループに属す “*por*+期間名詞句”は、その期間が定冠詞や指示詞等によって特定されておらず、*ps.*と共起した場合には、当該事態の有効期間を示すという特徴を共有する。一方、*imp.*と共起する “*por*+期間名詞句”は “*por*+特定かつ非量化期間名詞句”である。この *por* 句はその期間が定冠詞や指示詞等で特定化されているが、山村(1996, 1997, 1999)に従えば、同 *por* 句が *imp.*と共起する時には、その特定化された期間が *imp.*の出現に必須の「既定の過去時(P)」として機能すると考えられる。また、*ps.*と共起した同 *por* 句は当該事態の「生

起時」あるいはその「有効期間」を示すと解釈される。

以上のような“*por*+期間名詞句”に対する 2 つの解釈は、西西辞典における“*por*+期間名詞句”に対する説明と矛盾しないものである。Moliner(2007³:2354), Salamanca(1996:1246)の解釈を見ると, *durante* と等価とされている *por* 句は *imp.* と共起しなかった“*por*+期間名詞句”に対応し, *imp.* と共起した“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”の *por* 句は “sirve para atribuir la acción a un momento cualquiera de ese espacio (Moliner); indica el momento concreto en que se realiza una acción o transcurre un hecho (Salamanca)”や“*Así como lugar o tiempo aproximados*(Moliner);Indica aproximación al hablar de un momento o época(Salamanca)”と説明される *por* 句に対応すると考えられるからである。

また, “*por*+期間名詞句”がこのように 2 つに区分されると考えるならば, 2.2.2. で見たように, “*por*+特定かつ量化期間名詞句”が *ps.*あるいは *imp.*とも共起しなかった事実も説明できるようになる。つまり, 時の *por* 句における期間名詞句の量化の可能性は当該名詞句の特定性の有無に相関し, それが不特定の場合には量化できるが, 特定の場合には量化不可と考えるならば, “*por*+特定かつ量化期間名詞句”の名詞句は「特定」でありながら「量化」されるという相反する特徴の組み合わせになり, その出現自体不可能となるため, *ps.*, *imp.*のどちらとも共起することがなかった, と解釈されるのである⁷。

3.2.2. “*por*+期間名詞句”と“*durante*+期間名詞句”の比較対照

先にも述べたように, 本稿は Yamamura (en prensa)と同じく, *ps.*と *imp.*の機能的差異をその「アスペクト」の違いにあるとする「アスペクト説」の妥当性を当該二時制と期間を表す副詞句との共起の可能性という観点から検証しようとするものであるが, *ps.*および *imp.*の共起という観点から見ると, Yamamura (en prensa)が対象とした期間を表す *durante* 句と本稿が扱った期間を表す *por* 句の間には以下に述べるような違いがあることが分かった。

まず, “*durante*+期間名詞句”と“*por*+期間名詞句”の間には, 各前置詞が支配することのできる期間名詞句に違いがある。Yamamura (en prensa)が明らかにしたように, *durante* 句はその名詞句として「特定かつ量化期間名詞句」「特定かつ非量化期間名詞句」「不特定かつ量化期間名詞句」「不特定かつ非量化期間名詞

⁷ ここで述べる期間名詞句の量化の可能性と当該名詞句の特定性の関係は *por* 句が「時」の表現として機能する場合においてのみ観察されるものであり, *por* 句が次のように「時」の表現とは異なる解釈を受ける場合にはあてはまらない。例: *Gracias por los dos años que hemos compartido contigo. Enhorabuena por los dos años de tu blog.*

句」さらに *todo el tiempo*, *mucho tiempo* のすべてを取ることができ、それらを支配した *durante* 句はいずれも *ps.*と *imp.*の両方と共起していた。それに対し、本稿が扱った *por* 句は、前項で見たように、「特定かつ量化期間名詞句」、*todo el tiempo* は従えることができない。また、当該期間名詞句が不特定の場合は *ps.* としか共起できないという制約もあった。以上のことに基づきながら *durante* 句と *por* 句を解釈するならば、次のようになる。

まず、*durante* 句から見る。Brucart (2003:13-14)によると、前置詞 *durante* は語源的に動詞 *durar* の現在分詞であり、*durar* の項構造を継承しているという。次の例を見られたい。

(29) a. El concierto duró dos horas.

b. El concierto duró toda la tarde. (Brucart 2003:13)

Brucart(2003:14)によれば、動詞 *durar* は2つの内項を取るという。ひとつは(29a)の *dos horas* であり、Brucart はこれを便宜上 *sintagma cuantificador (SCu)* の第1項と呼んでいる。もう一つは(29b)の *el concierto* であり、Brucart はこれを *sintagma determinante(SDet)* の第2項と名付けている。Brucart (ibid.)は動詞 *durar* にこのような2項を設定した上で、第1項の *SCu* も *Su enfado duró el mes entero* という文が示すように *sintagma determinante* の形式を取ることができ、同様に、第2項の *SDet* も *Dos conferencias duran cuatro horas* という文が示すように *SCu* の形式で表されることがあると指摘している。そして、Brucart (ibid.)はこのことが *durante* 句が *localizador del acontecimiento* と解釈されたり *complemento durativo* と解釈されたりする理由であると結論づけているのである。このBrucart の見方に従えば、*durante* 句が支配する期間名詞句に制約がないのは、前置詞 *durante* の元である動詞 *durar* の項自体に制約がないことに因ることになる。

一方、“*durante*+期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起関係については、特に、その *imp.*との共起に注目したい。というのも、この“*durante*+期間名詞句”，とりわけ、その期間名詞句が量化された場合の *imp.*との共起は、*imp.*は当該事態の時間的限定性に言及することはないとする「アスペクト説」に対する強い反例となるからである。それに対し、山村(1996, 1997, 1999)の解釈によれば、この現象は、当該 *durante* 句が *imp.*の出現に必須の「既定の過去時(P)」として機能した結果生じたもので、当該 *imp.*文はその過去時(P)における指示対象の属性・特徴を示すと説明されることになる。以上のように、“*durante*+期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起関係には、前置詞 *durante* の語源的な意味・統語特性が

深く関係しているが、もともと前置詞であった *por* に支配された“*por*+期間名詞句”にも以下に述べるようなそれ特有の特徴がある。

時を表す“*por*+期間名詞句”の第一の特徴は、それが多様な機能を持つ *por* 句のひとつに過ぎないということで、このことは名詞句が期間を表すものであっても、その *por* 句が動詞句を修飾する副詞句として解釈される保証はないという点に明らかなのである。言い換えるならば、時の *por* 句がそれとして解釈されるためにはいくつかの条件が満たされなければならないのである。

*imp.*と共起しない“*por*+期間名詞句”の場合、期間名詞句はまず不特定でなければならず、共起する *ps.*文は *atélico* に限られる。特に、その期間が数詞で量化されている場合に出現した動詞は *sancionar*, *suspender*, *descalificar*, *excluir* といったものに限られ、これらの動詞と共起した“*por*+不特定かつ量化期間名詞句”は当該事態が発動された時間的単位と解釈することができる。また、“*por*+不特定かつ非量化期間名詞句”と“*por mucho tiempo*”に関しては、対応する *durante* 句が何らかの過去時を喚起し *imp.*と共起することができたのに対し、当該 *por* 句にはそのような働きはなく *ps.*としか共起していなかった。以上のことから、“*por*+不特定かつ量化あるいは非量化期間名詞句”は、同じタイプの *durante* 句とは異なり、*imp.*の出現に必須な「既定の過去時(P)」を喚起することではなく、その意味において、前置詞なしに量化された期間を示す *dos años*, *mucho tiempo* といった時の副詞句と類似するものと言える。

一方、期間名詞句が定冠詞や指示詞で特定化された“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は *ps.*のみならず *imp.*とも共起し、場合によっては、*imp.*の方が *ps.*よりも頻繁に出現する。山村(1996, 1997, 1999)に従えば、この事実は同 *por* 句が *imp.*の出現に必須の「既定の過去時(P)」として機能することを示すものであるが、このことは 2.2.1.で見たこの *por* 句に対する *allá* の前置とも無関係ではない。Salamanca (1996:69)によれば、*allá* は “Indica, de forma poco precisa, un lugar alejado tanto de la persona que habla como de la que escucha”とあり、話し手の基準時が発話時から過去時に移行することを比喩的に連想させるからである。また、“*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は、解釈上、当該名詞句が示す時点あるいはインターバルの近似値的表現となることが少なくなかったが、これも上記の *allá* の意味特徴と矛盾するものではないと思われる。

4. 結論

以上、“*por*+期間名詞句”と *ps.*および *imp.*の共起という観点から、*ps.*と *imp.*の機能的差異をそのアスペクトの違いと見る「アスペクト説」の妥当性を検討した。その結果は次のようにまとめられる。

- “*por*+期間名詞句”のうち“*por*+不特定かつ量化あるいは非量化期間名詞句”, “*por mucho tiempo*”は *atélico* な *ps.*文としか共起しなかった. この結果は「アスペクト説」の妥当性を支持するものであるが, これらの *por* 句と共起する動詞には偏りがあり, 少なくともスペインではその出現頻度は当該 *durante* 句に比べかなり低かった. なお, *imp.*が当該 *por* 句と共起しなかったのは, そのアスペクトの違いのためではなく, 当該 *por* 句が *imp.*の出現に必須の「既定の過去時(P)」として機能しなかったことに因ると考えることもできる.
- “*por*+特定かつ非量化期間名詞句”は *ps.*, *imp.*の両方と共起するだけでなく, 場合によっては, *imp.*の共起頻度が *ps.*のそれを上回った. 当該 *por* 句を *durante* 句と同じく期間を表す副詞句と考えるならば, この結果は「アスペクト説」の妥当性を減じるものである. 一方, 山村(1996, 1997, 1999)に従うならば, *imp.*と共起した当該 *por* 句は *imp.*が出現するのに不可欠な「既定の過去時(P)」として機能したと解釈される. また, *ps.*と共起した当該 *por* 句は, 当該 *ps.*文が *télico* の場合はその「生起時」を, 当該 *ps.*文が *atélico* の場合はその「生起時」あるいはその「有効期間」を表すと解釈される.
- *ps.*および *imp.*との共起のあり方から, “*durante*+期間名詞句”と “*por*+名詞句”の間には次のような違いがあることが明らかになった.
 - (i) *durante* 句はその名詞句として「特定かつ量化期間名詞句」「特定かつ非量化期間名詞句」「不特定かつ量化期間名詞句」「不特定かつ非量化期間名詞句」さらに *todo el tiempo*, *mucho tiempo* のすべてを取ることができ, それらを支配した *durante* 句はいずれも *ps.*と *imp.*の両方と共起していた. *imp.*と共起した *durante* 句はその出現に必須の「既定の過去時(P)」と解釈される. なお, 上記のように *durante* 句 が支配する名詞句に制約がないのは, それが動詞 *durar* の現在分詞に由来することと深く関係すると思われる.
 - (ii) 時を表す *por* 句は *imp.*と共起したか否かによって 2 種類に分けられる. *por* 句のうち *imp.*と共起したのは “*por*+特定かつ非量化期間名詞句”だけで, このとき同句は *imp.*の出現に不可欠な「既定の過去時(P)」として機能したと解釈される. 一方, “*por*+不特定かつ量化あるいは非量化期間名詞句”, “*por mucho tiempo*”は *ps.*としか共起せず, その点においてこれらの *por* 句は *dos años*, *mucho tiempo* といった前置詞なしの期間副詞句に似る. なお, “*por*+特定かつ量化期間名詞句”と “*por todo el tiempo*”は *ps.*, *imp.*のどちらとも共起しなかったが, これは時の *por* 句の量化がその名詞句の特定性の有無に相関しているため, 当該 *por* 句の出現自体が妨げられたことに因るとと思われる.

参考文献:

Brucart, Josep (2003): “El valor del imperfecto de indicativo en español”, *Estudios Hispánicos*, seneca.uab.cat

García Fernández, Luis (1998): *El aspecto gramatical en la conjugación*, Arco Libros S.L., Madrid.

Real Academia Española y Asociación de Academias Americanas (2009): *Nueva gramática de la lengua española*, Espasa Calpe, Madrid.

Yamamura, Hiromi (en prensa): “Reinterpretación de la relación entre las formas de pasado en español y los sintagmas de duración”, *Lingüística Hispánica*, Vol.33.

山村ひろみ(1996): 「canté/cantaba のアスペクト対立に基づく解釈をめぐって」, *HISPANICA* 40, 48-62.

-----(1997): 「canté 形, cantaba 形と時間的限定性」, *HISPANICA* 41, 53-66.

-----(1999): 「スペイン語の imperfecto と時間的限定性」, 『言語文化論究』No.10, 11-32.

----- (2011): 「スペイン語時制体系再構築のための覚書－NGLE におけるスペイン語時制の扱い方を踏まえて－」, 『言語科学』第 46 号, 75-94.

辞書

Español Santillana Universidad de Salamanca (1996): *Diccionario Salamanca de la Lengua Española*, Madrid, Santillana.

Moliner, María (2007³): *Diccionario de uso del español*, Gredos, Madrid.